

秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科
博士前期課程

学生募集要項

令和3年4月入学者選抜（令和2年8月実施試験・令和3年3月実施試験）
令和2年10月入学者選抜（令和2年8月実施試験）

令和2年6月



秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科 博士前期課程

◎入学定員・募集人員

【令和3年4月入学者選抜】

専攻名	入学定員	令和2年7月 実施試験	令和2年8月 実施試験	令和3年3月 実施試験	
		推 薦 特別選抜	一 般 選 抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜	一 般 選 抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜	学部3年次学生を 対象とする特別選抜
機械知能システム学専攻	17	17名程度		若干名	本研究科 として 若 干 名
電子情報システム学専攻	17	17名程度		若干名	
建築環境システム学専攻	6	6名程度		若干名	
経営システム工学専攻	5	5名程度		若干名	
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	5	5名程度		若干名	
計	50				

【令和2年10月入学者選抜】

専攻名	令和2年8月 実施試験
	一 般 選 抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜
機械知能システム学専攻	若 干 名
電子情報システム学専攻	若 干 名
建築環境システム学専攻	若 干 名
経営システム工学専攻	若 干 名
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	若 干 名

◎入学試験関係日程

【令和3年4月入学者選抜】

(令和2年8月実施試験)

入学資格審査申請期間	令和2年6月22日(月)～6月26日(金)	受付時間：午前9時～午後5時
出 願 期 間	令和2年7月27日(月)～7月31日(金)	
試 験 期 日	令和2年8月21日(金) 学力検査・面接	
合 格 者 発 表	令和2年8月27日(木) 午後1時予定	
入 学 手 続	令和2年9月8日(火)・9日(水) 受付時間：午前9時～午後5時	

(注) 社会人特別選抜は面接のみ実施します。

(令和3年3月実施試験)

入学資格審査申請期間	令和2年11月30日(月)～12月4日(金)	受付時間：午前9時～午後5時
出 願 期 間	令和3年2月1日(月)～2月5日(金)	
試 験 期 日	令和3年3月1日(月) 学力検査・面接	
合 格 者 発 表	令和3年3月6日(土) 午後1時予定	
入 学 手 続	令和3年3月14日(日)・15日(月) 受付時間：午前9時～午後5時	

(注) 社会人特別選抜は面接のみ実施します。

【令和2年10月入学者選抜】

入学資格審査申請期間	令和2年6月22日(月)～6月26日(金)	受付時間：午前9時～午後5時
出 願 期 間	令和2年7月27日(月)～7月31日(金)	
試 験 期 日	令和2年8月21日(金) 学力検査・面接	
合 格 者 発 表	令和2年8月27日(木) 午後1時予定	
入 学 手 続	令和2年9月8日(火)・9日(水) 受付時間：午前9時～午後5時	

(注) 社会人特別選抜は面接のみ実施します。

目 次

※令和3年4月入学者選抜（令和2年8月実施試験、令和3年3月実施試験）を志願する方はⅡを、令和2年10月入学者選抜（令和2年8月実施試験）を志願する方はⅢをご覧ください。

I	アドミッション・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー …	1
II	令和3年4月入学者選抜 （一般選抜、社会人特別選抜、外国人・帰国子女特別選抜、学部3年次学生を対象とする特別選抜）	
1	募集する専攻及び募集人員 ……………	4
2	出願資格 ……………	4
3	障害等のある入学志願者の事前相談について ……………	7
4	出願期間及び出願方法等 ……………	7
5	選抜方法等 ……………	11
6	合格者発表 ……………	15
7	入学手続、初年度納付金等 ……………	16
III	令和2年10月入学者選抜 （一般選抜、社会人特別選抜、外国人・帰国子女特別選抜）	
1	募集する専攻及び募集人員 ……………	18
2	出願資格 ……………	18
3	障害等のある入学志願者の事前相談について ……………	20
4	出願期間及び出願方法等 ……………	20
5	選抜方法等 ……………	24
6	合格者発表 ……………	28
7	入学手続、初年度納付金等 ……………	28
IV	共通事項	
1	入学試験成績の開示 ……………	30
2	個人情報の取扱いについて ……………	30
	【本荘キャンパスの案内図】 ……………	31
◎	秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の案内 ……………	32
	システム科学技術研究科における専攻再編について（予告） ……………	39

新型コロナウイルスの影響で、試験日程や試験方法が変更となる可能性があります。
変更となる場合は、本学ホームページでお知らせします。

I アドミッション・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー

(1) アドミッションポリシー

博士前期課程

学部教育を基礎として、さらに高度で先端的な厚みと広がりを持つことにより発展的な未来を切り開くことを目指す人材を受け入れます。

上記に加え、専攻ごとに次のような資質を持つ人を求めています。

★機械知能システム学専攻

- ・機械工学に関する基礎・専門知識および一定の研究能力を有し、さらにシステム思考により、機械工学に関する複数の分野におけるより高度な専門知識と技術および研究開発能力を有する技術者あるいは研究者を目指す人

★電子情報システム学専攻

- ・電子情報システムに関する基礎的な学力を有し、さらに高度な学問を学び研究経験を積むことによって、将来、専門技術者や研究者として活躍することを目指す人

★建築環境システム学専攻

- ・建築環境システム学に関する基礎・専門知識および一定の研究能力を有し、さらに建築環境システム学に関する複数の分野において高度な専門知識と技術および研究開発能力を有する技術者あるいは研究者を目指す人

★経営システム工学専攻

- ・経営管理、経営数理、社会環境システムに関する基礎知識を有し、将来目標を明確に定めた人間性豊かな人

★共同ライフサイクルデザイン工学専攻

- ・循環型社会の形成や地域社会の活性化に関する勉学及び研究に意欲を持ち、基礎的な学力や柔軟な対応能力、高い倫理観、広い視野を持った人

(2) カリキュラムポリシー

目的とする人材養成のため、博士前期の教育課程を次のとおりとします。

博士前期課程

高度専門職業人として必要な基礎的な知識・技術から文化、倫理まで、各専攻の内容を学際的に学べる授業科目を設けます。また、専攻ごとに教員の専門性を活かした科目を開講します。

各専攻では、次のような人材育成のための特色ある科目を開講します。

★機械知能システム学専攻

- ・機械工学全般に対する高度な専門知識を身に付けるための科目の他に、高知能化機械システムの研究開発の分野で産業と地域社会の発展に貢献する人材を育成するために、機械の具体的製作、機械システムの知能化、およびそれらのシステム設計・計画の三分野を柱にし、実践的な科目や分野横断的な科目を設けます。

★電子情報システム学専攻

- ・研究開発を通して、将来の電子産業の振興と情報化社会の進展に貢献し、さらに人にやさしい安心安全な情報化社会を構築する人材を育成するために、電子工学、情報工学のより専門的な科目と分野横断的な科目を設けます。

★建築環境システム学専攻

- ・将来にわたり持続可能な建築や地域・都市の形成・開発、および建築・都市文化の発展に貢献出来るように、また地域、国土に根ざした将来の建築技術を研究、開発し、建築学全般に係る高度な専門知識を身に付けるための科目、および建築学各分野における高度な応用力、実践力を高める科目、さらに高度な問題解決能力の涵養を図る科目を設けます。

★経営システム工学専攻

- ・鳥瞰的視野で新たな価値を創造し、企業および地域社会の持続可能な発展に貢献できるように、また科学的解析力と企画・実行力を備え、組織をリードできるように、経営システム工学の専門的な科目と企業や組織の課題を解決する実践的科目を設けます。

★共同ライフサイクルデザイン工学専攻

- ・グローバルな循環型社会の形成に貢献するには、総合工学としての幅広い基礎知識が要求されるため、ライフサイクルプランニング基礎等の科目を設け、多様な分野の先端的な内容については、秋田大学開設科目を含めた多数のライフサイクルデザイン工学専門科目でカバーします。環境に配慮した地域社会の活性化等の問題を扱う地域産業関係科目も含まれます。

(3) ディプロマポリシー

本学では、下記の能力を身に付けた学生に学位を授与します。

博士前期課程

学部教育を基礎として研究開発能力を育み、システム思考に更に高度で先端的な厚みと広がりを持たせることにより、発展的な未来を切り開く高度専門職業人としての能力を身に付け、修了に必要な単位を修得した学生に学位を授与します。

各専攻を通じ、修得すべき能力は次のとおりです。

★機械知能システム学専攻

- ①未来の社会を支える機械システムの知能化を目指し、産業と地域社会の発展に貢献できる能力
- ②機械とハイテクの融合による、人と環境に優しい、高度な機械システムを研究できる能力

★電子情報システム学専攻

- ①将来の電子産業の振興と情報化社会の進展に貢献できる高度な技術と幅広い問題解決能力
- ②安心安全な情報化社会を構成するための電子システム技術を創成する独創力

★建築環境システム学専攻

- ①将来にわたり持続可能な建築や地域・都市の形成・開発、および建築・都市文化の発展に貢献できる能力
- ②地域、国土に根ざした将来の建築技術を研究、開発し、国際的に活躍できる能力

★経営システム工学専攻

- ①鳥瞰的視野で新たな価値を創造し、企業および地域社会の持続可能な発展に貢献できる能力
- ②科学的解析力と戦略的思考力、企画・実行力を備え、組織をリードできる能力

★共同ライフサイクルデザイン工学専攻

- ①国際的な視点から循環型社会の形成に貢献できる能力
- ②環境に配慮した地域社会の活性化等の問題を研究できる能力

Ⅱ 令和3年4月入学者選抜

一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外国人・帰国子女特別選抜
学部3年次学生を対象とする特別選抜*

* 3月実施試験のみ

1 募集する専攻及び募集人員

入学定員及び 選抜区分 専攻名	入学 定員	令和2年7月 実施試験	令和2年8月 実施試験	令和3年3月 実施試験	
		推 薦 特別選抜	一 般 選 抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜	一 般 選 抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜	学部3年次学生を 対象とする特別選抜
機械知能システム学専攻	17	17名程度		若干名	
電子情報システム学専攻	17	17名程度		若干名	
建築環境システム学専攻	6	6名程度		若干名	
経営システム工学専攻	5	5名程度		若干名	
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	5	5名程度		若干名	
計	50				

「学部3年次学生を対象とする特別選抜」は、意欲あふれる優秀な学部学生に対して早期に大学院教育を受ける機会を提供するために実施するものです。

本特別選抜では、特に博士後期課程までを視野に入れ高度技術研究者を目指す、きわめて優秀な学生を選抜することを目標としています。

なお、「学部3年次学生を対象とする特別選抜」によって本研究科博士前期課程に入学した者の学部学生としての学籍上の身分は、早期卒業を認める大学を除き、本学等ほとんどの大学では退学になります。したがって、各種国家試験等の受験資格で大学の学部卒業が要件になっているものについては、受験資格がないことになるので十分留意してください。

2 出願資格

(1) 出願資格

【一般選抜】

以下の出願資格①～⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

【社会人特別選抜】

ア 機械知能システム学専攻、電子情報システム学専攻

2年以上の科学・技術関係の職務経験を有する者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

イ 建築環境システム学専攻、経営システム工学専攻、共同ライフサイクルデザイン工学専攻

2年以上の社会的経験を有する者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

【外国人・帰国子女特別選抜】

外国人留学生及び外国の大学において学校教育を受けた者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

【学部3年次学生を対象とする特別選抜】

以下の出願資格⑧～⑫のいずれかに該当する者は出願できます。

- ① 大学を卒業した者及び令和3年3月までに卒業見込みの者
- ② 独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和3年3月までに授

与される見込みの者

- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者〔旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学を卒業した者等〕
- ⑧ 令和3年3月末日に大学の在学期間が3年（休学期間を除く）以上となる者で、学部における所定単位（注1）を各学科の最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者（注2）
- ⑨ 令和3年3月末日に外国において学校教育における15年の課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位（注1）を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者（注2）
- ⑩ 令和3年3月末日に、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者（注2）
- ⑪ 令和3年3月末日に、我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者（注2）
- ⑫ ⑧～⑪に該当し大学院に入学した者であって、本大学院が大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑬ その他大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、令和3年4月1日までに22歳に達する者

（注1）「学部における所定単位」とは、当該大学の卒業に必要な最低修得単位数から4年次以降において修得することとされている科目の単位を除いた単位をいいます。

（注2）令和3年3月に大学卒業見込みの者は出願できません。出願資格について不明な場合には、教育本部（本荘キャンパス）アドミッションチームにお問い合わせください。

(2) 入学資格審査

- ① 出願資格⑧～⑬により出願を希望する者については、入学資格審査を行います。入学資格審査を受けるにあたっては、次の期間内に申請が必要となりますので、下記ii)において○印を付した書類を後記「出願先」まで提出してください（郵送の場合は、入学資格審査申請期間最終日の午後5時必着とし、「入学資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。持参の場合の受付時間は午前9時～午後5時までとします。）

i) 入学資格審査申請期間

令和2年8月実施試験	令和2年6月22日（月）～6月26日（金）
令和3年3月実施試験	令和2年11月30日（月）～12月4日（金）

ii) 入学資格審査に必要な書類

書 類 名	摘 要	出願資格	
		⑧～⑫に該当する者	⑬に該当する者
入学資格審査申請書	様式は本学のホームページからダウンロードし、必要事項を記入してください。	○	○
推薦書	様式は本学ホームページからダウンロードし、在籍している大学の学部長等が記入したものを、厳封し提出してください。	○	—
在学証明書	在籍している大学の学長等が作成し、厳封したものを提出してください。本学システム科学技術学部在籍者は提出不要です。	○*	—
成績証明書	在籍している大学の学長等が作成し、厳封したものを提出してください。	○	—
在籍大学学部・学科の履修要覧等	本学システム科学技術学部在籍者は提出不要です。写しも可。	○	—
履歴書	様式は任意	—	○
研究業績書	様式は任意とし、論文要旨、論文発表業績または研究業績のいずれかを提出してください。	—	○
返送用封筒（入学資格審査結果送付用）	長形3号の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、84円分の切手を貼付してください。	○	○

*⑫に該当する者は、在籍期間証明書を提出してください。

- ② 入学資格審査の結果は、次の期日までに本人あてに通知します。

令和2年8月実施試験	令和2年7月20日（月）
令和3年3月実施試験	令和3年1月25日（月）

3 障害等のある入学志願者の事前相談について

本大学院に入学を志願する者で、障害（学校教育法施行令）第22条の3に定める身体障害の程度）や疾病・負傷等により、受験上及び修学上において特別な配慮を希望する場合は、以下の期限までに後記「出願先」へ事前相談を行うようにしてください。相談を受けて、志願者の普段の様子をよく知る者に連絡をとることもあります。また、希望する配慮を必ずしも実施できるとは限りません。期限後に不慮の事故等により、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合には、速やかに連絡してください。

令和2年8月実施試験	令和2年6月26日（金）
令和3年3月実施試験	令和2年12月4日（金）

4 出願期間及び出願方法等

(1) 出願期間

令和2年8月実施試験	令和2年7月27日（月）～7月31日（金）
令和3年3月実施試験	令和3年2月1日（月）～2月5日（金）

(2) 出願方法

- ① 本入試はインターネット出願となります。大学ホームページからインターネット出願ページに進み、出願手続を行ってください。
- ② 本入試には一部郵送もしくは持参による提出が必要な書類があり、その提出までが出願手続となります。書類の提出は出願期間最終日の午後5時必着とします。なお、持参の場合の受付時間は午前9時から午後5時までとします。
- ③ 指導教員等が変更になる場合がありますので、出願前に必ず志望指導教員と連絡をとるようにしてください。

(3) 入学検定料

30,000円

(4) 出願先

〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4
秋田県立大学 アドミッションチーム（本荘キャンパス）
TEL 0184-27-2100 FAX 0184-27-2180

(5) 出願書類

各選抜区分欄に○印を付した書類を原則としてすべて提出してください。△印を付した書類は該当者のみ提出してください。「-」を付した書類は提出不要です。

番号	書類名	摘 要	選抜区分			
			一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	学 部 3 年 次 学 生 を 対 象 と す る 特 別 選 抜
1	入学志願票	インターネット出願ページから入学志願票を印刷して送付してください。	○	○	○	○
2	検定料振込証明書	インターネット出願ページから振込用紙を印刷し、金融機関で納付した際に受領する検定料振込証明書を入学志願票に貼付してください。	○	○	○	○
3	志望理由書	本大学院所定の用紙に志望理由を記入し提出してください。	○	○	○	○
4	業績レポート	一般選抜または外国人・帰国子女特別選抜に出願する者で出願資格⑬に該当する者、または社会人特別選抜に出願する者は本大学院所定の用紙に業績を記入してください。	△	○	△	-
5	卒業（見込）証明書または学位授与（申請受理）証明書	①出身大学の学長等、または大学評価・学位授与機構が発行する証明書を提出してください。 ②大学評価・学位授与機構に学位授与申請中の場合は、同機構が交付する学位授与申請受理証明書を提出してください。	○*1	○	○	-
6	成績証明書	出身大学の学長等が発行する成績証明書を厳封して提出してください。	○	○	○	-*2
7	TOEIC Official Score Certificate (公式認定証)	平成30年8月21日以降に受験した Official Score Certificate (公式認定証) 原本を提出してください。ただし、本学で実施した TOEIC-IP を受験した場合は、当該スコアレポート (個人成績表) 原本の提出をこれに代えることができます。 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	⊖	-	-	⊖

番号	書類名	摘要	選抜区分			
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人・帰国子女特別選抜	学部3年次学生を対象とする特別選抜
8	住民票の写しまたはパスポートの写し	日本に住所を有する外国籍の者は、住民票の写し（出願前3か月以内に発行したもの）を提出してください。受験のために来日する外国籍の者は、パスポートの写しを提出してください。	△	△	△	△
9	日本語能力に関する証明書 注) システム科学技術研究科の授業は、原則として日本語で行われます。	日本国籍を有しない者は、日本国際教育支援協会の実施する日本語能力試験の「認定書の写し」または「認定結果及び成績に関する証明書」若しくは国内外における日本語教室の修了書・成績書等を提出してください。	△	△	△	△
10	受験承諾書	企業等に在籍のまま本大学院に入学を希望する者は、企業等の所属長が作成した受験承諾書を提出してください（様式は任意とします）。	△	△	△	—
11	受験許可書	他の大学院に在学中の者は、当該大学院の長等が発行した受験許可書を提出してください（様式は任意とします）。	△	△	△	—
12	安全保障輸出管理に関する誓約書	外国籍の方、または、日本国籍を有するが非居住者に該当する方は、本学ホームページに掲載の「安全保障輸出管理に関する誓約書」の内容を確認のうえ、必要事項を記入・押印、またはサインをし、提出してください。 URL: https://www.akita-pu.ac.jp/nyushi/joho/joho-daigakuin/	△	△	△	△
13	その他本学が指定する書類	入学資格審査の結果、必要と認められる書類について連絡があった場合提出してください。	△	△	△	△

【注】各種証明書等の中で提出が困難な書類の取扱いについては、出願までに前記「出願先」までお問い合わせください。

- * 1 出願資格⑧～⑬に該当する者は提出不要です。
- * 2 入学資格審査の際に提出されているため、出願時は提出不要です。

(6) 出願上の注意事項

- ① 出願にあたっては、32ページ以降の「秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の案内」を参照の上、必ず志望研究グループの担当教員に問い合わせてください。問い合わせの際は、前記出願先に連絡してください。
- ② 出願書類に、次のような不備のあるものは受理しないことがあるので、十分確認してください。不備のある出願書類は、出願期間経過後に返送します。
 - ア 出願書類がそろっていないもの
 - イ 記入漏れ、誤記のあるもの
- ③ 出願書類はインターネット出願ページの注意事項を参照してください。
- ④ 出願受付後の出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所及び電話番号に変更があった場合は、前記出願先まで連絡してください。
- ⑤ 受験票は、出願書類受理後にインターネット出願ページからダウンロードできるようになりますので、印刷してください。
- ⑥ 外国から本学大学院受験のために来日する者は、日本国への入国に必要な書類の発給に時間を要する場合がありますので、発給元に所要時間、必要書類を確認するなど受験に間に合うように十分注意してください。
- ⑦ 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「秋田県立大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生等の受け入れに際し厳格な審査を行っています。規制事項に該当する場合は、希望する教育や研究が受けられない場合がありますので、注意してください。
- ⑧ 一度受理した出願書類は返却しません。

(7) 入学検定料の返還請求について

既納の入学検定料は、次の場合に限り返還します。

返 還 事 由	返 還 額 ※
(ア) 入学検定料を振り込んだが、出願しなかった場合	30,000円
(イ) 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合	30,000円

※実際の返還額は振込手数料を差し引いた額となります。

【返還請求方法】

本学ホームページから「入学検定料返還請求書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、振込済みの検定料振込証明書を同封して次の送付先へ請求してください。

送付先：〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学教育本部（本荘キャンパス）アドミッションチーム

送付期限：令和3年2月26日（金）必着

【注】封筒には「入学検定料返還請求書在中」と朱書きしてください。

5 選抜方法等

(1) 試験期日

令和2年8月実施試験	令和2年8月21日（金）
令和3年3月実施試験	令和3年3月1日（月）

(2) 選抜方法

① 選抜方法は次のとおりです。

選 抜 区 分	選 抜 方 法
一 般 選 抜	書類審査、学力検査、面接を総合して行います。
社 会 人 特 別 選 抜	書類審査、面接を総合して行います。
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	書類審査、学力検査、面接を総合して行います。
学部3年次学生を対象とする特別選抜	書類審査、学力検査、面接を総合して行います。

② 学力検査の出題分野等

別表1（12頁）並びに別表2－1（13頁）及び別表2－2（13頁）を参照してください。

別表1 学力検査科目等一覧表

区分	専攻分野	機械知能システム学専攻 及び 機械知能システム学分野	電子情報システム学専攻 及び 電子情報システム学分野	建築環境システム学専攻 及び 建築環境システム学分野	経営システム工学専攻 及び 経営システム工学分野	共同ライフサイクル デザイン工学専攻
一般選抜	英語	TOE-I-C(公開テスト)のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEICの成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOE-I-C(公開テスト)のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEICの成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOE-I-C(公開テスト)のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEICの成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOE-I-C(公開テスト)のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEICの成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	機械知能システム学分野、電子情報システム学分野、建築環境システム学分野、経営システム工学分野の4分野の中から、希望する主要指導教員が指定する分野の方式で実施する
	学部3年次学生を対象とする特別選抜	全4問(基礎科目2問を含む計4問を選択) ○基礎科目 (応用数学 ^(注2) 、力学、材料力学、機械力学、流体力学、熱力学) ○応用科目 (機械材料、物質工学、機械設計、ロボット工学、制御工学、生産工学)	全4問(基礎科目2問・応用科目2問の計4問を選択) ○基礎科目 (数学 ^(注3) 、物理学、電磁気学、電気回路学、情報基礎) ○応用科目 (制御工学、電子回路学、電子デバイス・電子物性工学、電子計算機工学、通信工学、情報工学)	全3問 ○別表2-1に示す各研究グループによる専門科目(全4問)から3問を選択。第1、第2志望研究グループの出題は必ず選択すること	全3問 ○小論文(必答) ○別表2-2に示す専門科目(全12科目)から2科目を選択	全3問 ○小論文(必答) ○別表2-2に示す専門科目(全12科目)から2科目を選択
外国人・帰国子女特別選抜	専	全4問(基礎科目2問を含む計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全4問(基礎科目2問・応用科目2問の計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全3問 ○別表2-1に示す各研究グループによる専門科目(全4問)から3問を選択。第1、第2志望研究グループの出題は必ず選択すること	全3問 ○小論文(必答) ○別表2-2に示す専門科目(全12科目)から2科目を選択	
	門	全4問(基礎科目2問を含む計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全4問(基礎科目2問・応用科目2問の計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全3問 ○別表2-1に示す各研究グループによる専門科目(全4問)から3問を選択。第1、第2志望研究グループの出題は必ず選択すること	全3問 ○小論文(必答) ○別表2-2に示す専門科目(全12科目)から2科目を選択	

〔注1〕 選択科目について、出願時に選択してください。選択した科目は変更できません。

〔注2〕 応用数学の出題分野は、複素解析、常微分方程式、フーリエ解析、ラプラス変換、ベクトル解析です。

〔注3〕 数学の出題分野は、解析学、線形代数です。

別表 2 - 1 建築環境システム学専攻の研究グループ・専門科目出題内容

研究グループ	専門科目・出題内容
建築構造学グループ	○建築構造学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・構造力学 ・構造設計 ・鉄筋コンクリート構造、鋼構造
建築材料学グループ	○建築材料学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・建築構造材料および仕上げ材料 ・建築の構法および一般構造 ・建築材料の生産と環境への配慮
環境計画学グループ	○環境計画学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・物理環境要素（熱、空気、湿気、音、光）の性質と人体への影響 ・物理環境要素の建築物や建築設備による制御 ・寒地建築の環境設計手法 ・環境共生建築の設計手法
都市・建築計画学グループ	○都市・建築計画学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・建築計画、建築設計、建築環境 ・建築史、建築空間史 ・都市計画、都市環境、環境評価 ・都市安全

別表 2 - 2 経営システム工学専攻専門科目等

専 門 科 目
経営戦略、オペレーションズリサーチ、インダストリアルエンジニアリング、経営法務、会計学、生産管理、経済学、数理統計学、人間工学、経営情報システム、数学 ^(注) 、環境工学

〔注〕 数学の出題範囲は解析学、線形代数です。

(3) 配 点 (令和2年8月実施試験、令和3年3月実施試験共通)

選 抜 区 分	学 力 検 査		面 接	合 計
	英 語	専 門		
一 般 選 抜	1 0 0	3 0 0	3 0 0	7 0 0
社 会 人 特 別 選 抜	—	—	7 0 0	7 0 0
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	—	4 0 0	3 0 0	7 0 0
学 部 3 年 次 学 生 を 対 象 と す る 特 別 選 抜	1 0 0	3 0 0	3 0 0	7 0 0

(4) 試験時間割

【令和2年8月実施試験】

専 攻 分 野 選 抜 区 分	令 和 2 年 8 月 21 日 (金)	
	機械知能システム学専攻及び機械知能システム学分野 電子情報システム学専攻及び電子情報システム学分野 建築環境システム学専攻及び建築環境システム学分野 経営システム工学専攻及び経営システム工学分野	共同ライフサイクル デザイン工学専攻
一 般 選 抜	学力検査 (専 門) 午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 3 0 分 面 接 午後 2 時 ~	学力検査 上段の 4 分野の中 から、希望する主 指導教員が指定す る分野の方式で実 施する 面 接 午後 2 時 ~
社 会 人 特 別 選 抜	面 接 午前 1 0 時 ~	
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	学力検査 専 門 午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 3 0 分 面 接 午後 2 時 ~	

【令和3年3月実施試験】

専 攻 分 野 選 抜 区 分	令 和 3 年 3 月 1 日 (月)	
	機械知能システム学専攻及び機械知能システム学分野 電子情報システム学専攻及び電子情報システム学分野 建築環境システム学専攻及び建築環境システム学分野 経営システム工学専攻及び経営システム工学分野	共同ライフサイクル デザイン工学専攻
一 般 選 抜 学 部 3 年 次 学 生 を 対 象 と す る 特 別 選 抜	学力検査 (専 門) 午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 3 0 分 面 接 午後 2 時 ~	学力検査 上段の 4 分野の中 から、希望する主 指導教員が指定す る分野の方式で実 施する 面 接 午後 2 時 ~
社 会 人 特 別 選 抜	面 接 午前 1 0 時 ~	
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	学力検査 専 門 午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 3 0 分 面 接 午後 2 時 ~	

(5) 試験会場

秋田県立大学本荘キャンパス（31ページ参照）

(6) 受験上の注意

- ① 当日は、受験票を必ず持参してください。
- ② 当日に受験票を忘れた者は、速やかに係員に申し出て仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は、入学手続の際に必要なため、試験後も大切に保管してください。
- ③ 受験者は、試験開始30分前までに、指定された試験室または面接控室に入室し、着席してください。
- ④ 学力検査開始後は、30分以内の遅刻に限り受験を認めますが、検査時間の延長は行いません。また、原則として、途中退室は認めません。
- ⑤ 面接開始時に不在であった場合には、欠席したものとして取り扱います。
- ⑥ 一般選抜及び外国人・帰国子女特別選抜で課す学力検査、面接のいずれかを受験しなかった者並びに社会人特別選抜で面接を受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- ⑦ 携帯電話等の電子機器類は、事前に必ず電源を切ってください。
- ⑧ その他必要な事項が生じた場合には、別途通知します。
- ⑨ 学部3年次学生を対象とする特別選抜に志願した者は、3年次修了時までの単位修得状況等を確認する必要がありますので、成績証明書及び在学証明書を令和3年2月26日（金）午後5時までに前記出願先に提出してください。

6 合格者発表

(1) 発表期日

令和2年8月実施試験	令和2年8月27日（木）	午後1時予定
令和3年3月実施試験	令和3年3月6日（土）	午後1時予定

- (2) 発表方法 秋田県立大学のホームページに合格者受験番号を掲載するとともに、合格者には合格通知書を送付します。なお、電話等による問い合わせには一切応じません。

7 入学手続、初年度納付金等

(1) 入学手続

① 入学手続期間

令和2年8月実施試験	令和2年9月8日(火)・9日(水)
令和3年3月実施試験	令和3年3月14日(日)・15日(月)

(受付時間：各日の午前9時～午後5時)

- ② 入学手続場所 秋田県立大学本荘キャンパス (31ページ参照)
- ③ 入学手続方法 入学手続の詳細及び必要な書類は、合格通知書とともに送付します。

(2) 初年度納付金等

① 入 学 料

ア 金 額	秋田県内の者	282,000円
	上記以外の者	423,000円

(注) 「秋田県内の者」とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

- 一 入学の日の1年前から引き続き秋田県内に住所を有する者
- 二 配偶者または1親等の親族が入学の日の1年前から引き続き秋田県内に住所を有する者
- 三 前2号に掲げる者のほか、これらの者に準ずる者として理事長が認めた者

イ 納付方法 合格通知書に同封する入学手続書類に従い、入学手続の際に納付してください。なお、本学が認める特別な理由がある場合を除き、納付した入学金は返還しません。

② 授 業 料

ア 金 額	年額	535,800円
-------	----	----------

イ 納付方法 前期(納付期限4月30日)、後期(同10月31日)の2回に分けて納付してください。なお、在学中に授業料が改定された場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(3) その他

① 授業料の減免

家庭の経済的事情や不測の災害などのため、授業料の納付が著しく困難な学生に対する授業料の減免制度があります。

② 奨 学 金

ア 独立行政法人日本学生支援機構が貸与する奨学金についての詳細は、独立行政法人日本学生支援機構のホームページをご覧ください。

イ この他にも、地方公共団体等の奨学金制度があります。

③ 特待生制度について

本学には、成績優秀者に対して奨学金を給付する特待生制度があります。

④ 長期履修学生制度について

長期履修学生制度とは、学生が職業を有していたり、育児・介護に従事したりしている等の個人の事情に応じて、在学年限（博士前期課程4年、博士後期課程6年）の範囲内で、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて計画的に教育課程を履修・修了することを認め、学位を取得できる制度です。

以下に該当する方が対象となります。

- ア 職業を有している者
- イ 育児・介護に従事している者
- ウ その他長期履修が必要となる相当の理由がある者

修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付することとなります。申請方法については、各研究科入学予定者にご案内しています。

⑤ 後援会について

後援会加入学生を対象として、学校教育活動中及び通学中を補償する学生保険（「学生教育研究災害傷害保険」・「学研災付帯賠償責任保険」）に一括加入しているほか、大学主催の各種就職対策講座やインターンシップへの助成、様々な資格取得への助成等を行っています。

後援会費は2年間で20,000円です。入会を希望する方は入学手続きの際にお申し出ください。

Ⅲ 令和2年10月入学者選抜

一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜

1 募集する専攻及び募集人員

専攻名	募集人員
	一般選抜 社会人特別選抜 外国人・帰国子女特別選抜
機械知能システム学専攻	若干名
電子情報システム学専攻	若干名
建築環境システム学専攻	若干名
経営システム工学専攻	若干名
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	若干名

2 出願資格

(1) 出願資格

【一般選抜】

以下の出願資格①～⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

【社会人特別選抜】

ア 機械知能システム学専攻、電子情報システム学専攻

2年以上の科学・技術関係の職務経験を有する者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

イ 建築環境システム学専攻、経営システム工学専攻、共同ライフサイクルデザイン工学専攻

2年以上の社会的経験を有する者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

【外国人・帰国子女特別選抜】

外国人留学生及び外国の大学において学校教育を受けた者で、以下の出願資格①～⑦及び⑬のいずれかに該当する者が出願できます。

- ① 大学を卒業した者及び令和2年9月までに卒業見込みの者
- ② 独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和2年9月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者

- ⑦ 文部科学大臣の指定した者〔旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校を卒業した者等〕
 - ⑧ 令和2年9月末日に大学の在学期間が3年（休学期間を除く）以上となる者で、学部における所定単位（注1）を各学科の最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者（注2）
 - ⑨ 令和2年9月末日に外国において学校教育における15年の課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位（注1）を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者
 - ⑩ 令和2年9月末日に、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者
 - ⑪ 令和2年9月末日に、我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了する見込みの者で、学部における所定単位を最上位の成績で修めた者のうち、入学資格審査による認定を受けた者
 - ⑫ ⑧～⑪に該当し大学院に入学した者であって、本大学院が大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
 - ⑬ その他大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、令和2年10月1日までに22歳に達する者
- （注1）「学部における所定単位」とは、当該大学の卒業に必要な最低修得単位数から4年次以降において修得することとされている科目の単位を除いた単位をいいます。
- （注2）令和2年9月に大学卒業見込みの者は出願できません。出願資格について不明な場合には、教育本部（本荘キャンパス）アドミッションチームにお問い合わせください。

(2) 入学資格審査

- ① 出願資格⑧～⑬により出願を希望する者については、入学資格審査を行います。

入学資格審査を受けるにあたっては、次の期間内に申請が必要となりますので、次頁「入学資格審査に必要な書類」の各書類を後記「出願先」まで提出してください（郵送の場合は、入学資格審査申請期間最終日の午後5時必着とし、「入学資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。持参の場合の受付時間は午前9時～午後5時までとします）。

i) 入学資格審査申請期間

令和2年6月22日（月）～6月26日（金）

ii) 入学資格審査に必要な書類

書類名	摘要
入学資格審査申請書	様式は本学のホームページからダウンロードし、必要事項を記入してください。
履歴書	様式は任意です。
研究業績書	様式は任意とし、論文要旨、論文発表業績または研究業績のいずれかを提出してください。
返送用封筒（入学資格審査結果送付用）	長形3号の封筒に、郵便番号、住所及び氏名を明記し、84円分の切手を貼付してください。

- ② 入学資格審査の結果は、令和2年7月20日（月）までに本人あてに通知します。

3 障害等のある入学志願者の事前相談について

本大学院に入学を志願する者で、障害（学校教育法施行令）第22条の3に定める身体障害の程度）や疾病・負傷等により、受験上及び修学上において特別な配慮を希望する場合は、以下の期限までに、後記「出願先」へ事前相談を行うようにしてください。相談を受けて、志願者の普段の様子をよく知る者に連絡をとることもあります。また、希望する配慮を必ずしも実施できるとは限りません。期限後に不慮の事故等により、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合には、速やかに連絡してください。

4 出願期間及び出願方法等

(1) 出願期間

令和2年7月27日（月）～7月31日（金）

(2) 出願方法

- ① 本入試はインターネット出願となります。大学ホームページからインターネット出願ページに進み、出願手続を行ってください。
- ② 本入試には一部郵送もしくは持参による提出が必要な書類があり、その提出までが出願手続となります。書類の提出は出願期間最終日の午後5時必着とします。なお、持参の場合の受付時間は午前9時から午後5時までとします。
- ③ 指導教員等が変更になる場合がありますので、出願前に必ず志望指導教員と連絡をとるようにしてください。

(3) 入学検定料

30,000円

(4) 出願先

〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4
秋田県立大学 アドミッションチーム (本荘キャンパス)
T E L 0184-27-2100 F A X 0184-27-2180

(5) 出願書類

各選抜区分欄に○印を付した書類を原則としてすべて提出してください。△印を付した書類は該当者のみ提出してください。「-」を付した書類は提出不要です。

番号	書類名	摘 要	選抜区分		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人・帰国子女特別選抜
1	入学志願票	インターネット出願ページから入学志願票を印刷して送付してください。	○	○	○
2	検定料振込証明書	インターネット出願ページから振込用紙を印刷し、金融機関で納付した際に受領する検定料振込証明書を入学志願票に貼付してください。	○	○	○
3	志望理由書	本大学院所定の用紙に志望理由を記入し提出してください。	○	○	○
4	業績レポート	一般選抜、外国人・帰国子女特別選抜に出願する者で出願資格⑬に該当する者、または社会人特別選抜に出願する者は本大学院所定の用紙に業績を記入してください。	△	○	△
5	卒業（見込）証明書または学位授与（申請受理）証明書	①出身大学の学長等、または大学評価・学位授与機構が発行する証明書を提出してください。 ②大学評価・学位授与機構に学位授与申請中の場合は、同機構が交付する学位授与申請受理証明書を提出してください。	○*	○	○
6	成績証明書	出身大学の学長等が発行する成績証明書を厳封して提出してください。	○	○	○

番号	書類名	摘要	選抜区分		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人・帰国子女特別選抜
7	TOEIC Official Score Certificate —(公式認定証)—	平成30年8月21日以降に受験した Official Score Certificate (公式認定証) 原本を提出してください。ただし、本学で実施した TOEIC-IP を受験した場合は、当該スコアレポート(個人成績表) 原本の提出をこれに代えることができるものとします。 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	○	—	—
8	住民票の写しまたはパスポートの写し	日本に住所を有する外国籍の者は、住民票の写し(出願前3か月以内に発行したもの)を提出してください。受験のために来日する外国籍の者は、パスポートの写しを提出してください。	△	△	△
9	日本語能力に関する証明書 (注) システム科学技術研究科の授業は、原則として日本語で行われます。	日本国籍を有しない者は、日本国際教育支援協会の実施する日本語能力試験の「認定書の写し」または「認定結果及び成績に関する証明書」若しくは国内外における日本語教室の修了書・成績書等を提出してください。	△	△	△
10	受験承諾書	企業等に在籍のまま本大学院に入学を希望する者は、企業等の所属長が作成した受験承諾書を提出してください(様式は任意とします)。	△	△	△
11	受験許可書	他の大学院に在学中の者は、当該大学院の長等が発行した受験許可書を提出してください(様式は任意とします)。	△	△	△
12	安全保障輸出管理に関する誓約書	外国籍の方、または、日本国籍を有するが非居住者に該当する方は、本学ホームページに掲載の「安全保障輸出管理に関する誓約書」の内容を確認のうえ、必要事項を記入・押印、またはサインをし、提出してください。 URL: https://www.akita-pu.ac.jp/nyushi/joho/joho-daigakuin/	△	△	△
13	その他本学が指定する書類	入学資格審査の結果、必要と認められる書類について連絡があった場合提出してください。	△	△	△

【注】各種証明書等の中で提出が困難な書類の取扱いについては、出願までに前記「出願先」までお問い合わせください。

* 出願資格⑧～⑬に該当する者は提出不要です。

(6) 出願上の注意事項

- ① 出願にあたっては、32ページ以降の「秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の案内」を参照の上、必ず志望研究グループの担当教員に問い合わせてください。問い合わせの際は、前記出願先に連絡してください。
- ② 出願書類に、次のような不備のあるものは受理しないことがあるので、十分確認してください。不備のある出願書類は、出願期間経過後に返送します。
 - ア 出願書類がそろっていないもの
 - イ 記入漏れ、誤記のあるもの
- ③ 出願書類はインターネット出願ページの注意事項を参照してください。
- ④ 出願受付後の出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所及び電話番号に変更があった場合は、前記出願先まで連絡してください。
- ⑤ 受験票は、出願書類受理後にインターネット出願ページからダウンロードできるようになりますので、印刷してください。
- ⑥ 外国から本学大学院受験のために来日する者は、日本国への入国に必要な書類の発給に時間を要する場合がありますので、発給元に所要時間、必要書類を確認するなど受験に間に合うように十分注意してください。
- ⑦ 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「秋田県立大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生等の受け入れに際し厳格な審査を行っています。規制事項に該当する場合は、希望する教育や研究が受けられない場合がありますので、注意してください。
- ⑧ 一度受理した出願書類は返却しません。

(7) 入学検定料の返還請求について

既納の入学検定料は、次の場合に限り返還します。

返 還 事 由	返 還 額
(ア) 入学検定料を振り込んだが、出願しなかった場合	30,000円
(イ) 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合	30,000円

※実際の返還額は振込手数料を差し引いた額となります。

【返還請求方法】

本学ホームページから「入学検定料返還請求書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、振込済みの検定料振込証明書を同封して次の送付先へ請求してください。

送付先：〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学教育本部（本荘キャンパス）アドミッションチーム

送付期限：令和3年2月26日（金）必着

【注】封筒には「入学検定料返還請求書在中」と朱書きしてください。

5 選抜方法等

(1) 試験期日

令和2年8月21日(金)

(2) 選抜方法

① 選抜方法は次のとおりです。

選 抜 区 分	選 抜 方 法
一 般 選 抜	書類審査、学力検査、面接を総合して行います。
社 会 人 特 別 選 抜	書類審査、面接を総合して行います。
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	書類審査、学力検査、面接を総合して行います。

② 学力検査の出題分野等

別表1(25頁)並びに別表2-1(26頁)及び別表2-2(26頁)を参照してください。

別表1 学力検査科目等一覧表

専攻分野	機械知能システム学専攻 及び 機械知能システム学分野	電子情報システム学専攻 及び 電子情報システム学分野	建築環境システム学専攻 及び 建築環境システム学分野	経営システム工学専攻 及び 経営システム工学分野	共同ライフサイクル デザイン工学専攻
区分	TOEIC (公開テスト) のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOEIC (公開テスト) のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOEIC (公開テスト) のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	TOEIC (公開テスト) のスコアを利用 今年度実施の入試に限り、TOEIC の成績に代えて学部時に単位を修得した英語の授業科目の成績で判定します。	機械知能システム学分野、電子情報システム学分野、建築環境システム学分野、経営システム工学分野の4分野の中から、希望する主要指導教員が指定する分野の方式で実施する
一般選抜	全4問 (基礎科目2問を含む計4問を選択) ○基礎科目 (応用数学 ^(注2) 、力学、材料力学、機械力学、流体力学、熱力学) ○応用科目 (機械材料、物質工学、機械設計、ロボット工学、制御工学、生産工学)	全4問 (基礎科目2問・応用科目2問の計4問を選択) ○基礎科目 (数学 ^(注3) 、物理学、電磁気学、電気回路学、情報基礎) ○応用科目 (制御工学、電子回路学、電子デバイス・電子物性工学、電子計算機工学、通信工学、情報工学)	全3問 ○別表2-1に示す各研究グループによる専門科目 (全4問) から3問を選択。第1、第2志望研究グループの出題は必ず選択すること	全3問 ○小論文 (必答) ○別表2-2に示す専門科目 (全12科目) から2科目を選択	全3問 ○小論文 (必答) ○別表2-2に示す専門科目 (全12科目) から2科目を選択
外国人・帰国子女特別選抜	全4問 (基礎科目2問を含む計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全4問 (基礎科目2問・応用科目2問の計4問を選択) ○基礎科目 (一般選抜と同じ) ○応用科目 (一般選抜と同じ)	全3問 ○別表2-1に示す各研究グループによる専門科目 (全4問) から3問を選択。第1、第2志望研究グループの出題は必ず選択すること	全3問 ○小論文 (必答) ○別表2-2に示す専門科目 (全12科目) から2科目を選択	上記同様

〔注1〕 選択科目について、出願時に選択してください。選択した科目は変更できません。

〔注2〕 応用数学の出題分野は、複素解析、常微分方程式、フーリエ解析、ラプラス変換、ベクトル解析です。

〔注3〕 数学の出題分野は、解析学、線形代数です。

別表 2 - 1 建築環境システム学専攻の研究グループ・専門科目出題内容

研究グループ	専門科目・出題内容
建築構造学グループ	○建築構造学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・構造力学 ・構造設計 ・鉄筋コンクリート構造、鋼構造
建築材料学グループ	○建築材料学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・建築構造材料および仕上げ材料 ・建築の構法および一般構造 ・建築材料の生産と環境への配慮
環境計画学グループ	○環境計画学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・物理環境要素（熱、空気、湿気、音、光）の性質と人体への影響 ・物理環境要素の建築物や建築設備による制御 ・寒地建築の環境設計手法 ・環境共生建築の設計手法
都市・建築計画学グループ	○都市・建築計画学 下記の内容またはそれらを含む総合的な事項 ・建築計画、建築設計、建築環境 ・建築史、建築空間史 ・都市計画、都市環境、環境評価 ・都市安全

別表 2 - 2 経営システム工学専攻専門科目等

専 門 科 目
経営戦略、オペレーションズリサーチ、インダストリアルエンジニアリング、経営法務、会計学、生産管理、経済学、数理統計学、人間工学、経営情報システム、数学 ^(注) 、環境工学

〔注〕 数学の出題範囲は解析学、線形代数です。

(3) 配 点

選 抜 区 分	学 力 検 査		面 接	合 計
	英 語	専 門		
一 般 選 抜	1 0 0	3 0 0	3 0 0	7 0 0
社 会 人 特 別 選 抜	—	—	7 0 0	7 0 0
外 国 人 ・ 帰 国 子 女 特 別 選 抜	—	4 0 0	3 0 0	7 0 0

(4) 試験時間割

専攻分野 選抜区分	令和2年8月21日(金)	
	機械知能システム学専攻及び機械知能システム学分野 電子情報システム学専攻及び電子情報システム学分野 建築環境システム学専攻及び建築環境システム学分野 経営システム工学専攻及び経営システム工学分野	共同ライフサイクル デザイン工学専攻
一 般 選 抜	学力検査(専門) 午前9時30分～午後0時30分 面 接 午後2時～	学力検査 上段の4分野の中から、希望する主 指導教員が指定す る分野の方式で実 施する 面 接 午後2時～
社会人特別選抜	面 接 午前10時～	
外国人・帰国子女 特 別 選 抜	学力検査 専 門 午前9時30分～午後0時30分 面 接 午後2時～	

(5) 試験会場

秋田県立大学本荘キャンパス(31ページ参照)

(6) 受験上の注意

- ① 当日は、受験票を必ず持参してください。
- ② 当日に受験票を忘れた者は、速やかに係員に申し出て仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は、入学手続きの際に必要となるので、試験後も大切に保管してください。
- ③ 受験者は、試験開始30分前までに、指定された試験室又は面接控室に入室し、着席してください。
- ④ 学力検査開始後は、30分以内の遅刻に限り受験を認めますが、検査時間の延長は行いません。また、原則として、途中退室は認めません。
- ⑤ 面接開始時に不在であった場合には、欠席したものとして取り扱います。
- ⑥ 一般選抜及び外国人・帰国子女特別選抜で課す学力検査、面接のいずれかを受験しなかった者並びに社会人特別選抜で面接を受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- ⑦ 携帯電話等の電子機器類は、事前に必ず電源を切ってください。
- ⑧ その他必要な事項が生じた場合には、別途通知します。

6 合格者発表

- (1) 発表期日 令和2年8月27日(木) 午後1時予定
- (2) 発表方法 秋田県立大学のホームページに合格者受験番号を掲載するとともに、合格者には合格通知書を送付します。なお、電話等による問い合わせには一切応じません。

7 入学手続、初年度納付金等

(1) 入学手続

- ① 入学手続期間 令和2年9月8日(火)・9日(水)
(受付時間：各日の午前9時～午後5時)
- ② 入学手続場所 秋田県立大学本荘キャンパス(31ページ参照)
- ③ 入学手続方法 入学手続の詳細及び必要な書類は、合格通知書とともに送付します。

(2) 初年度納付金等

① 入学料

ア 金額	秋田県内の者	282,000円
	上記以外の者	423,000円

(注) 「秋田県内の者」とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

- 一 入学の日の1年前から引き続き秋田県内に住所を有する者
- 二 配偶者又は1親等の親族が入学の日の1年前から引き続き秋田県内に住所を有する者
- 三 前2号に掲げる者のほか、これらの者に準ずる者として理事長が認めた者

イ 納付方法 合格通知書に同封する入学手続書類に従い、入学手続の際に納付してください。なお、本学が認める特別な理由がある場合を除き、納付した入学料は返還しません。

② 授業料

ア 金額	年額	535,800円
------	----	----------

イ 納付方法 前期(納付期限4月30日)、後期(同10月31日)の2回に分けて納付してください。なお、在学中に授業料が改定された場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(3) その他

① 授業料の減免

家庭の経済的事情や不測の災害などのため、授業料の納付が著しく困難な学生に対する授業料の減免制度があります。

② 奨学金

ア 独立行政法人日本学生支援機構が貸与する奨学金についての詳細は、独立行政法人日本学生支援機構のホームページをご覧ください。

イ この他にも、地方公共団体等の奨学金制度があります。

③ 特待生制度について

本学には、成績優秀者に対して奨学金を給付する特待生制度があります。

④ 長期履修学生制度について

長期履修学生制度とは、学生が職業を有していたり、育児・介護に従事したりしている等の個人の事情に応じて、在学年限（博士前期課程4年、博士後期課程6年）の範囲内で、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて計画的に教育課程を履修・修了することを認め、学位を取得できる制度です。

以下に該当する方が対象となります。

ア 職業を有している者

イ 育児・介護に従事している者

ウ その他長期履修が必要となる相当の理由がある者

修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付することとなります。申請方法については、各研究科入学予定者にご案内しています。

⑤ 後援会について

後援会加入学生を対象として、学校教育活動中及び通学中を補償する学生保険（「学生教育研究災害傷害保険」・「学研災付帯賠償責任保険」）に一括加入しているほか、大学主催の各種就職対策講座やインターンシップへの助成、様々な資格取得への助成等を行っています。

後援会費は2年間で20,000円です。入会を希望する方は入学手続の際にお申し出ください。

IV 共通事項

1 入学試験成績の開示

当該入学者選抜試験に係る個人情報の開示は、本人に限って、次により口頭で請求し、その場で閲覧することができます。ただし、「公立大学法人秋田県立大学入試情報公開規程」に基づき、合格者が10名に満たない専攻については不合格者のみの開示となるので注意してください。

① 請求の方法

本人が、開示場所（秋田県立大学アドミッションチーム（本荘キャンパス））に出向いて請求してください。

郵送による請求はできません。

また、請求者が本人であることを確認するため、必ず受験票を持参してください。

② 開示する情報

得点

③ 開示する期間

合格者発表の日から1か月間（土・日・祝日を除く）

④ 入学試験成績の開示についての問い合わせ先

秋田県立大学アドミッションチーム（本荘キャンパス）

〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

T E L 0184-27-2100 F A X 0184-27-2180

2 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「公立大学法人秋田県立大学個人情報保護規程」に基づいて以下のとおり取り扱います。

① 出願にあたって知り得た個人情報は、次の業務を行うために利用します。

- ・入学者選抜（出願処理、選抜実施）
- ・合格者発表
- ・入学手続
- ・次年度以降の学生募集

② 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料作成のために利用します。

③ 出願にあたって知り得た個人情報は、入学者についてのみ次の業務を行うために利用します。

- ・教務関係（学籍、修学指導等）
- ・学生支援関係（奨学金申請等）
- ・授業料徴収

④ 本学に出願した者は、上記の記載内容に同意したものとみなします。

本荘キャンパスの案内図

秋田県立大学本荘キャンパス

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

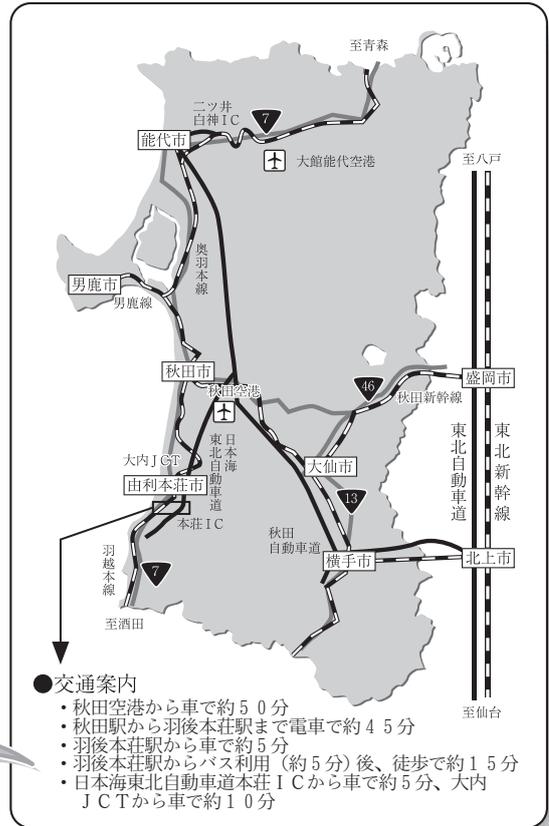
TEL 0184-27-2100

FAX 0184-27-2180

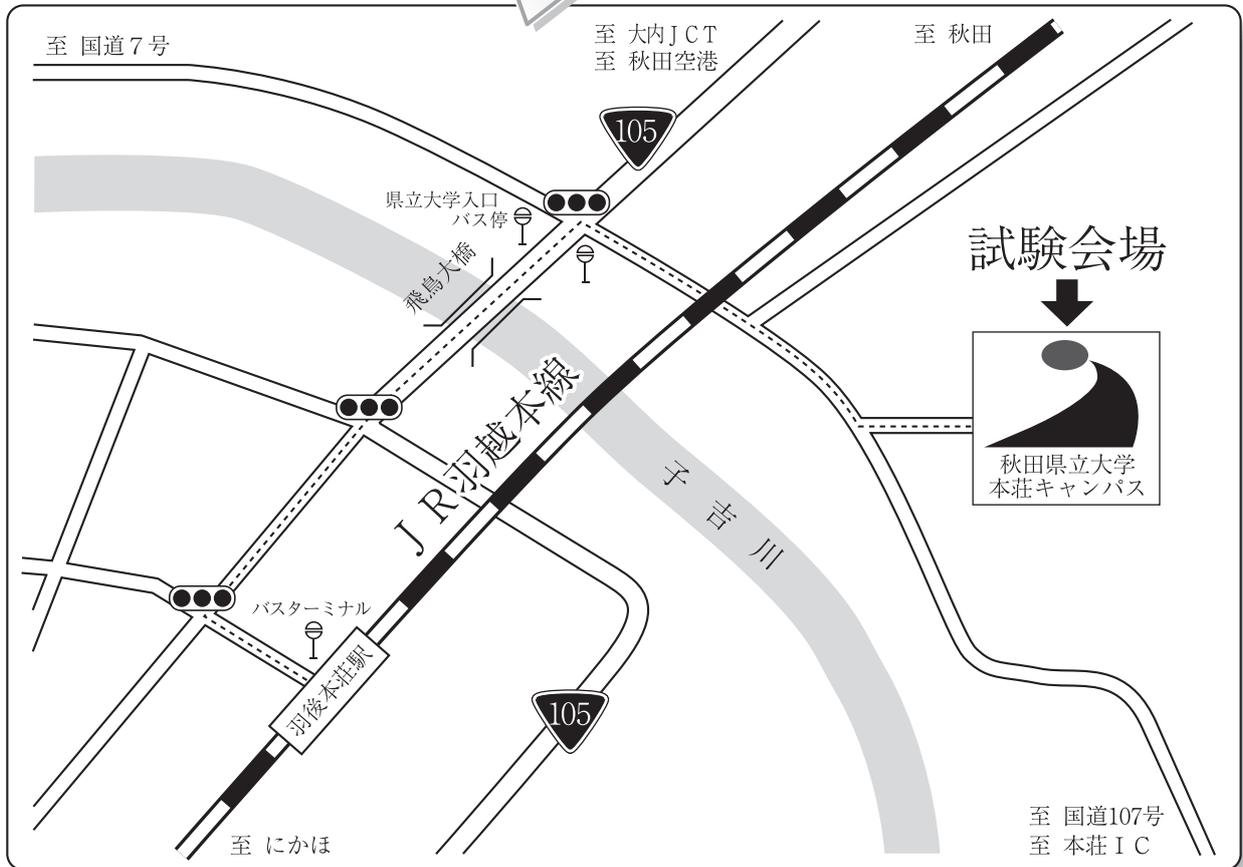
本荘キャンパスまでの交通

鉄道利用：JR羽越本線「羽後本荘駅」にて下車後、
徒歩約30分

バス利用：JR羽越本線「羽後本荘駅」からバスで
市内線（東回り）、本荘伏見線、東由利
線を利用して、バス停「県立大学入口」
にて下車後、徒歩約15分



拡大図



秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の案内

博士前期課程	機械知能システム学専攻 電子情報システム学専攻 建築環境システム学専攻 経営システム工学専攻 共同ライフサイクルデザイン工学専攻
博士後期課程	総合システム科学専攻

1 システム科学技術研究科【博士前期課程】の概要

機械知能システム学専攻、電子情報システム学専攻、建築環境システム学専攻、経営システム工学専攻、共同ライフサイクルデザイン工学専攻の研究領域は、次の研究グループ・分野から構成されています。

① 機械知能システム学専攻

強度・信頼性評価グループ、材料創製・加工グループ、流体科学フロンティアグループ、熱科学グループ、ロボット・メカノシステムグループ、人間支援メカトロニクスグループ

② 電子情報システム学専攻

先進物性デバイスグループ、情報ネットワーク基盤グループ、メディア情報グループ、計測通信制御システムグループ

③ 建築環境システム学専攻

建築構造学グループ、建築材料学グループ、環境計画学グループ、都市・建築計画学グループ

④ 経営システム工学専攻

経営企画グループ、先端ビジネスマネジメントグループ、計画数理グループ、経営データ分析グループ、社会環境シミュレーショングループ、環境マネジメントグループ

⑤ 共同ライフサイクルデザイン工学専攻

機械知能システム学分野、電子情報システム学分野、建築環境システム学分野、経営システム工学分野

2 システム科学技術研究科【博士後期課程】の概要

総合システム科学専攻は次の3つの系からなり、その研究領域はそれぞれ次の研究グループから構成されています。

① 機構・デバイス系

強度・信頼性評価グループ、材料創製・加工グループ、先進物性デバイスグループ、建築構造学グループ、建築材料学グループ、社会環境シミュレーショングループの一部、環境マネジメントグループの一部

② 情報・知能系

流体科学フロンティアグループ、熱科学グループ、情報ネットワーク基盤グループ、メディア情報グループ、建築構造学グループ、建築材料学グループ、環境計画学グループ、都市・建築計画学グループ、計画数理グループ、経営データ分析グループ、経営企画グループの一部、先端ビジネスマネジメントグループ

③ 社会・環境系

ロボット・メカノシステムグループ、人間支援メカトロニクスグループ、計測通信制御システムグループ、都市・建築計画学グループ、環境計画学グループ、社会環境シミュレーショングループの一部、環境マネジメントグループの一部、経営企画グループの一部、先端ビジネスマネジメントグループ

3 各専攻の担当教員と研究テーマ

各専攻の研究グループに所属する教員の研究テーマは次頁以降の一覧のとおりです。

なお、各研究テーマ等の詳細については、秋田県立大学ホームページの「地域連携・研究推進センター」内の「研究者総覧」に掲載しておりますので、参考にしてください。

(秋田県立大学ホームページアドレス <https://www.akita-pu.ac.jp/>)

機械知能システム学専攻：担当教員と研究テーマ

履修コース		研究グループ	担当教員	研究テーマ
博士後期課程	博士前期課程			
機 構 ・ デ バ イ ス 系	材 料	強 度 ・ 信 頼 性 評 価 グ ル ー プ	教 授 水野 衛 教 授 邱 建輝 准教授 伊藤 伸 准教授 伊藤一志	複合材料の内部損傷評価と健全性評価法の開発 炭素繊維強化複合材料の界面特性に関する研究 高分子材料の塑性加工および接合技術の開発 バイオマスから燃料および環境に優しい複合材料の開発 導電性ナノ高分子複合材料の創製および性能評価 欠陥を有する材料に生じる振動の解析とその応用 機能性表面を用いた細胞アッセイ技術に関する研究
	構 造 系	材 料 創 製 ・ 加 工 グ ル ー プ	教 授 尾藤輝夫 教 授 富岡隆弘 教 授 鈴木庸久 准教授 野村光由 准教授 高橋武彦	新奇な非平衡材料の創製とその特性に関する研究 機能・構造材料の微細組織と特性制御に関する研究 粘弾性体の変形を利用した制振デバイスの開発 減衰評価および減衰のモデル化に関する研究 連続体の振動解析と多モード制振に関する研究 難削材・先端材料に対応する高性能加工ツールの開発 複合材料の3Dプリンティング技術の開発 機能性ナノ材料複合コーティング技術の開発 マイクロ・ナノ加工技術・評価技術の開発 超音波微振動を援用した超精密・微細加工技術の高度化開発 磁場の援用による先進材料の超平滑研磨技術の開発 微小径切削工具による加工プロセスの最適化 難削材の高精度・高能率加工に関する研究 バイオマスの省エネルギー微粉砕に関する研究 リグノセルロースファイバーの乾式生産システムの確立
情 報 ・ 知 能 系	熱 流 体 系	熱 科 学 グ ル ー プ	教 授 鶴田 俊 教 授 杉本尚哉※ 教 授 石本志高 准教授 須知成光 准教授 大上泰寛	バイオ燃料等の熱流体物性測定に関する研究 バイオマスを利用した環境問題対応技術開発研究 堆積有機物等の蓄熱現象に関する研究 可燃性液体プール燃焼の熱輸送現象に関する研究 金属粉・酸化剤混合系の燃焼に関する研究 廃棄物処理における爆発火災に関する研究 放電及びプラズマによる材料表面処理に関する物理的基礎研究 プラズマの高エネルギー・電磁流体特性を利用した新技術開発研究 生体組織・器官形態形成の流体科学および医理工学的学際研究 染色体・クロマチン動態の流体科学および医理工学的学際研究 運動する微小物体の形態・機能特性の解明とその工学的応用開発 再生可能エネルギーの利活用に関する研究 高温空気条件下における固体廃棄物燃焼に関する研究 特殊環境下における燃焼反応メカニズムの解明
		流 体 科 学 フ ロ ン テ ィ ア グ ル ー プ	教 授 佐藤 明	粒子分散系の分子シミュレーションによるマイクロ流体科学 磁性粒子分散系の磁気温熱療法への応用のための基礎研究 drug deliveryシステムへの応用のための磁性粒子の運動解析 低温流体や超伝導体を用いた磁場応用技術に関する研究
社 会 ・ 環 境 系	生 体 知 能 系	ロ ボ ッ ト ・ メ カ ノ シ ス テ ム グ ル ー プ	教 授 下井信浩 准教授 佐藤俊之 准教授 齋藤直樹	レスキューロボットと広域偵察技術の研究 福祉及び医療支援ロボットとセンサに関する研究 線形制御系の設計・解析に関する基礎的研究とメカトロニクスへの応用 知的最適化ならびに知能制御手法を用いたモーションコントロールに関する研究 身体機能を考慮したセンサ・アクチュエータデバイスの研究
		人 間 支 援 メ カ ト ロ ニ ク ス グ ル ー プ	准教授 齋藤 敬 准教授 間所洋和	脳機能（学習・記憶・推論）メカニズムの工学的研究 脳機能を応用した人に優しい知能化技術とその最適化 人間の内部状態推定に基づく危険運転予測モデルの工学的研究 高効率細胞膜穿孔技術に基づく細胞計測・治療システム 独自の移動・運搬機構による産業創出型各種ロボットの開発研究

注1) 出願にあたっては、必ず志望する研究グループの担当教員に問い合わせてください。

注2) ※印は、博士前期課程では共同専攻（共同ライフサイクルデザイン工学専攻）に所属し、博士後期課程では当該研究グループに所属する教員を示します。

電子情報システム学専攻：担当教員と研究テーマ

履修コース		研究グループ	担当教員	研究テーマ
博士後期課程	博士前期課程			
機構・デバイス系	電子デバイスシステム系	先進物性デバイスグループ	教授 小谷光司 准教授 山口博之	環境エレクトロニクス向け半導体デバイス・集積回路の研究 環境発電・ワイヤレス微小電力伝送技術の研究 ナノカーボン材料の合成プロセスおよび新規機能性開拓に関する研究 光電・熱電変換材料の特性改善及び素子作製に関する研究
			教授 能勢敏明 准教授 本間道則	ミリ波・THz波を用いたセンシングに関する研究 液晶を用いたミリ波・THz波デバイスに関する研究 有機フォトンクス材料の新規光デバイス応用に関する研究 有機半導体材料の光センサ応用に関する研究
情報・知能系	情報システム系	情報ネットワーク基盤グループ	教授 飯田一朗* 准教授 草苺良至	情報ネットワークにおけるソフトウェアエージェント技術に関する研究 安全な情報ネットワークのための情報セキュリティに関する研究 IoT環境におけるアドホック通信制御技術に関する研究 情報ネットワーク技術の農業への応用に関する研究
			教授 堂坂浩二 准教授 石井雅樹 准教授 廣田千明	言葉と身振りを使って人間活動を支援する会話ロボットに関する研究 人間の言葉を理解・生成するための自然言語処理に関する研究 画像処理と機械学習を主としたコンピュータの知能化技術に関する研究 農業における熟練技能の知識化と自動化を目指した農工連携に関する研究 並列計算機による大規模問題の数値演算アルゴリズムに関する研究 常微分方程式の数値解析アルゴリズムに関する研究 爆発問題の数値解析に関する研究
		メディア情報グループ	教授 陳国躍 准教授 猿田和樹	機械学習を用いた映像中の物体認識手法に関する研究 深層学習を用いた医用画像認識手法に関する研究 画像処理および視線計測技術を用いた応用システムに関する研究 仮想現実および拡張現実に関する研究
			教授 西口正之 准教授 高根昭一 准教授 渡邊貴治	音の三次元定位の制御とそのバーチャルリアリティへの応用に関する研究 室内の音声情報伝達特性の評価とその改善に関する研究 マルチモーダル情報の感性評価に関する研究 音響信号処理に関する研究 音空間情報の取得及び聴覚特性に基づく符号化に関する研究
社会・環境系	電子システム系	計測通信制御システムグループ	准教授 高山正和	大気圧プラズマの生成に関する研究 バーニアモータの特性算定と設計法に関する研究
			教授 徐粒 准教授 岡本洋 准教授 松下慎也	グラフ理論による多次元システム最小状態空間実現に関する研究 無線通信システムにおける適応スパースチャンネル推定 量子計測・制御を用いた新型電子顕微鏡の研究 不動点理論に基づくアルゴリズムの開発および制御工学への応用に関する研究
			准教授 戸花照雄※	移動体通信システム用高効率増幅器に関する研究 ワイヤレス給電用低損失整流回路の研究 マイクロ波帯プリント回路基板の電磁環境特性の研究

注1) 出願にあたっては、必ず志望する研究グループの担当教員に問い合わせてください。

注2) ※印は、博士前期課程では共同専攻（共同ライフサイクルデザイン工学専攻）に所属し、博士後期課程では当該研究グループに所属する教員を示します。

注3) *印は、令和4年3月で退職する教員です。

建築環境システム学専攻：担当教員と研究テーマ

履修コース		研究グループ	担当教員	研究テーマ
博士後期課程	博士前期課程			
機構・デバイス系 情報・知能系 社会・環境系 情報・知能系	構造	建築構造学グループ	教授 西田哲也 教授 菅野秀人 准教授 Cuadra, Carlos	建築物の安全性評価・実証技術と構造設計法 建築構造部材の耐力・変形性状評価法と破壊挙動予測手法 既存建築物の耐震診断法及び耐震補強設計法 新材料・新技術を用いた構工法の開発 常時微動観測による地盤の動的性質評価 建築遺産を含む建築構造物の振動解析による耐震性検討 免震・制振技術による建築物の地震応答制御
	環境	建築材料学グループ	教授 板垣直行 准教授 石山 智	木質材料・木質構造の性能評価と性能向上技術の開発 建築におけるスギ材の有効活用に関する研究 コンクリート材料の劣化性状と補修・補強に関する研究 短繊維補強セメント系複合材料の研究と開発
	計画	環境計画学グループ	教授 松本真一 教授 長谷川兼一	居住環境の健康性・快適性・省エネルギー性の評価と改善 コンピュータ支援による寒地建築の環境設計手法の開発 冷暖房等への自然エネルギー利用手法と省エネルギー計画
	画系	都市・建築計画学グループ	教授 山口邦雄 准教授 込山敦司 准教授 浅野耕一※	コンパクトシティ形成に向けた都市のあり方と実現方策 市民まちづくり活動に基づく地域マネジメント 建築設計・都市デザイン 建築空間デザイン（形態、色彩、素材）が知覚・心理に及ぼす作用 リスク対応型地域管理情報システムの開発 地域施設および地域環境資源の利活用 木造民家の構法および近代化過程

注1) 出願にあたっては、必ず志望する研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 建築材料学グループと環境計画学グループの研究内容は、博士後期課程の情報・知能系以外に機構・デバイス系と社会・環境系の研究領域の一部を構成しています。

注3) ※印は、博士前期課程では共同専攻（共同ライフサイクルデザイン工学専攻）に所属し、博士後期課程では当該研究グループに所属する教員を示します。

経営システム工学専攻：担当教員と研究テーマ

履修コース		研究グループ	担当教員	研究テーマ
博士後期課程	博士前期課程			
社会・環境系	社会	経営企画グループ	教授 朴元熙 准教授 嶋崎真仁	品質・生産管理を支援する管理会計システムの特徴に関する研究 組織変革と管理会計チェンジとの関係性に関する研究 コストマネジメントに関する研究 原価企画システムに関する研究 経営情報システム、品質管理、信頼性に関する研究 地域活性化・地域創生への経営工学的手法の適用研究 没入型 VR システムの応用に関する研究
	情報	先端ビジネスマネジメントグループ	教授 上原宏 准教授 鈴木一哉	ユーザー行動データからの知識発見アルゴリズムの研究 機械学習にもとづくデータ解析に関する研究 IoT ビジネスモデルに関する研究 IoT データ収集・分析・流通に関する研究 自律分散システムに関する研究
	管理	計画数理グループ	教授 木村寛 准教授 星野満博	最適化問題の数理科学的研究とその応用に関する研究 経営システムなどにおける統計的科学的研究 数理統計、応用数学及び数理モデルに関する研究 確率的意思決定とその応用に関する研究
	系	経営データ分析グループ	教授 宮本道子	偏りのある不完全大規模データに基づく中小企業信用リスクに関する研究 企業買収における会社法と契約法の交錯に関する研究法と統計学に関する研究、IT 投資効果に関する研究、介護に関連する調査・研究
機構・デバイス系	産業環境	社会環境シミュレーショングループ	教授 山口高康 准教授 嶋崎善章	社会を効率よく駆動させるサイバーフィジカルシステムに関する研究 楽しく快適なスマートシティに関する研究 便利で安全な権利価値流通に関する研究 持続的・地域経済発展、環境・資源経済、市場分析、企業および消費者行動、経済政策に関連する研究
	管理系	環境マネジメントグループ	准教授 金澤伸浩※ 准教授 菊地英治 准教授 梁瑞録※ 准教授 川島洋人	地域資源の利活用システム構築に関する研究 参加型リスク教育システムの開発と普及に関する研究 水環境・室内環境のリスク評価に関する研究 リサイクリング技術開発、電気化学、半導体電気化学、光電気化学、公害対策技術開発・廃水処理技術開発 製品・サービスのライフサイクルアセスメントに関する研究 選別・分離工学に関する研究 安定同位体を用いた環境鑑識学の研究 化学物質の分析方法開発の研究 大気中の有害化学物質の発生源解析の研究

注1) 出願にあたっては、必ず志望研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 社会環境シミュレーショングループ及び、環境マネジメントグループの研究内容は、博士後期課程の機構・デバイス系と社会・環境系の研究領域の一部を構成しています。

注3) 経営企画グループ及び、先端ビジネスマネジメントグループの研究内容は、博士後期課程の社会・環境系と情報・知能系の研究領域の一部を構成しています。

注4) ※印は、博士前期課程では共同専攻（共同ライフサイクルデザイン工学専攻）に所属し、博士後期課程では当該研究グループに所属する教員を示します。

共同ライフサイクルデザイン工学専攻：担当教員と教育研究分野

担当教員	教育研究分野	
	分 野	内 容
教 授 杉本 尚哉	機械知能システム学分野 プラズマ工学 放電工学	放電及びプラズマによる材料表面処理に関する物理的基礎研究 農林水産業や食品業へのプラズマ応用に関する研究 高反応性プラズマの生成・利用に関する研究 プラズマの高エネルギー・電磁流体特性を利用した新技術開発研究
准教授 戸花 照雄	電子情報システム学分野 環境電磁工学 通信工学	プリント回路から放射される不要電磁波の推定および抑制方法 線路間の漏話現象（クロストーク）の解析 近傍電磁界測定と回路の等価電磁波源推定など マイクロ波帯プリント回路基板の電磁環境特性に関する研究
准教授 浅野 耕一	建築環境システム学分野 建築環境学 地理情報システム	リスク対応型地域管理情報システム具現化 居住環境ライフサイクルアセスメント 自治体低炭素社会化政策支援ツール 建築意匠設計者と環境設備設計者の意思疎通 地方都市におけるこどものあそび環境
准教授 金澤 伸浩	経営システム工学分野 環境工学 環境教育	地域資源の利活用技術の開発および地域循環システムの構築 リスクの参加型教育手法の開発と普及システムの構築 水環境の評価および環境問題改善支援
准教授 梁 瑞録	経営システム工学分野 ライフサイクルアセスメント リサイクル工学	製品・サービス・資源リサイクルのライフサイクルアセスメントに関する研究 資源リサイクル技術の開発 粉体微粒子の分離技術に関する研究

システム科学技術研究科における専攻再編について（予告）

システム科学技術研究科では、令和4年4月に、現在の機械知能システム学専攻、電子情報システム学専攻、建築環境システム学専攻及び経営システム工学専攻の4専攻を融合型の1専攻（総合システム工学専攻（仮称））に再編し、共同ライフサイクルデザイン工学専攻を共同サステナブルデザイン工学専攻（仮称）に改組することを検討しております。

なお、詳細については決まり次第、本学ホームページ等での公表を予定しております。

令和4年度秋田県立大学大学院システム科学技術研究科博士前期課程 入学者選抜における英語の学力検査について(お知らせ)

令和2年12月3日
システム科学技術研究科

秋田県立大学大学院システム科学技術研究科博士前期課程の入学者選抜では、英語の学力検査に代えて、TOEIC（公開テスト）のスコア（本学で実施したTOEIC-IPを受験した場合は当該スコアも可）を利用していますが、コロナウイルス感染症の影響により令和2年度中のTOEIC公開テストの実施が大幅に制限されていることに加え、今後の感染拡大の状況によってはTOEICの受験ができず、本学が求めるスコアの提出が困難な受験生が出てくることも予想されるため、令和4年度入学者選抜においてはTOEICのスコアは利用しないこととしました。

したがって、令和4年度入学者選抜においては、令和3年度入学者選抜と同じく、学部時に単位を修得した英語授業科目の成績で英語学力を判定することとします。

この件についてご不明な点のある方は、下記窓口までお問い合わせください。

秋田県立大学 本荘キャンパス アドミッションチーム

〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL 0184-27-2100

出願、受験、その他の問い合わせ先

システム科学技術研究科

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学 アドミッションチーム（本荘キャンパス）

TEL 0184-27-2100

FAX 0184-27-2180

◎ホームページアドレス

<https://www.akita-pu.ac.jp/>